

## 令和1年度 播磨町水道事業報告書

### 1 概況

#### (1) 総括事項

本年度の給水業務状況は、給水装置数が前年比で147栓（0.9%）増の16,213栓、給水人口は104人（0.3%）減の34,505人となりました。

なお、年間有収水量は、7,502m<sup>3</sup>（0.2%）減の3,556,522m<sup>3</sup>となっており、給水装置数が増加したものの給水人口の減少と節水意識の向上に伴って減少傾向となっています。

配水施設工事については、前年度からの繰越工事である平成30年度大中地区（第1工区）基幹管路布設替工事のほか、北古田地区配水管布設工事、宮西地区配水管布設替工事（1工区）、令和元年度町道二子二見線配水管布設替工事を行いました。

浄水場関連施設では第3浄水場中央監視装置更新工事、フェンス更新工事（1号取水井・第2浄水場）、令和元年度取水井浚渫清掃工事（2号・11号取水井）、第1配水池汚泥仮置場設置工事を行いました。

経営状況（税抜）については、総収益が640,340,651円に対して、総費用が497,417,279円で、当年度純利益142,923,372円を計上しました。

水道事業収益の主なものは、水道料金511,390,179円（79.8%）、長期前受金戻入[※注]99,722,540円（15.6%）で、収益全体の95.4%を占めています。

一方、水道事業費用の主なものは、減価償却費193,139,888円（38.8%）、支払利息及び企業債取扱諸費20,768,195円（4.2%）、職員給与費37,237,041円（7.5%）、県水受水費58,255,679円（11.7%）、動力費38,119,779円（7.7%）で費用全体の69.9%を占めています。

以上の結果、供給単価は143.79円、給水原価は111.38円になりました。

資本的収支（税込）については、総収入額が184,795,500円に対して、支出は建設改良費が611,010,162円、企業債償還金106,081,195円で総支出額717,091,357円となりました。

なお、不足する532,295,857円については、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額44,585,211円、減債積立金54,622,684円、建設改良積立金172,022,684円、過年度分損益勘定留保資金261,065,278円で補てんしました。

以上が令和元年度における経営並びに事業実施の概要であります。今後におきましても住民に安全で低廉な水を安定的に供給するため、水源の確保と効率的な事業運営に取り組み、公共の福祉の増進に努めます。

#### <注>

地方公営企業会計制度の見直しにより、平成26年度から償却資産の取得又は改良に伴い交付される補助金等については、「長期前受金」として負債（繰延収益）に計上した上で、減価償却見合い分を「長期前受金戻入」として順次収益化する。（地方公営企業法施行令第26条、地方公営企業法施行規則第21条）